



石本先生
レッスン動画

QRコード読み取りアプリでご覧ください。



石本先生



Yちゃん

耳で記憶する。

石本:さて今日はある曲を聴いてもらってそれがどんな曲なのか?聴いて覚えて弾いてもらうことにします。

Yちゃん:え〜!

石本:大丈夫、簡単だよ

〜演奏 (ツェルニー100番練習曲〜13番終盤)〜

Yちゃん:え〜!わからん!

石本:ただ聴いてるだけではつかめないよ。何を聴くか!?が大事。1つヒントね。3/8拍子です。じゃあそれを元に『何小節でできているか?』『どんな形でできているか?』を考えよう。それがわかれば覚えやすいよ。

石本:〜演奏〜

さてどんなことがわかったかな?何小節?何調かな?

Yちゃん:24小節!ドで終わるから…八長調やと思う!

石本:さあ、もう弾けるかな?できるだけ少なく弾いて聴けるのがいいよ。どうしたら少ない回数で全部わかるか、考えよう!

〜演奏〜

さてじゃあどんな形式になっているのかな?音楽の形が『ぶんぶんぶん』か『メリーさんの羊』か、はたまた『春が来た』か?どれだろう?

Yちゃん:え〜と『ぶんぶんぶん』みたい!でもはじめと終わりは少し違う!

石本:そうだね、何が違って何は同じなんだろう?そこ聴いてみよう。

〜演奏2回〜

Yちゃん:え〜と、メロディの音が多くなって…多分…左手は同じ?

石本:よく聴けました!メロディの音が多くなって聴けたかな?

Yちゃん:うん!あ、ちょっとわかったかも!?なんか〜同じようなこと言ってるから歌いやすい気がする。

石本:じゃあ、意外に覚えやすかった?音のかたち、『音形』が同じなんだね。

Yちゃん:〜演奏〜

石本:よかったよ!

Yちゃん:でも〜なんかちょっと…左手が…違ってないように聞こえたんだけど、使ってる音同じなんだけど〜なんかちょっと違う。気になるなあ。

石本:じゃあ、そこは次のレッスンで解説しよう!



内藤晃 先生 特別誌上レッスン①



内藤先生
レッスン動画

QRコード読み取りアプリでご覧ください。

楽節構造ってなあに？

内藤: Kくんは“文節”ってことは知ってる？

Kくん: 国語で習いました！文章を“ネ”で分けるやつですね。

内藤: そう！意味のまとまりで区切った単位のこと。

たとえば『ぼくは夕食後にピアノを練習します』って文だったら、
『ぼくは／夕食後に／ピアノを／練習します』ってなる。

僕は日本人だからふだん文節なんか意識しないけど、英語の文を読むときなんかは、少し長い文になると、文節みたいな意味のまとまりごとにスラッシュ引いてくと読みやすくなるよね。

Kくん: カッコでくくりましようとか、スラッシュ引きましようとか、先生に言われます！

内藤: 実は、音楽にも、文節みたいな意味のまとまりがあるんだ。楽節っていうんだけど。

Kくん: ガクセツ？

内藤: そう。それが曲のなかでどうなっているかを、楽節構造っていうんだ。だいたい4小節ずつ規則的に進行して、その小さなフレーズが8小節で大きなフレーズを形づくるんだけど、そうっていない曲もあって。さっきのベートーヴェンの展開部は、6小節になったり、3小節になったりして不規則で、迷子になりやすいから気をつけて！英語の文も、区切りを間違えると、意味が伝わらなくなっちゃうよね。

Kくん: ほんとだ！4小節ずつの進行じゃないと、なんか半端な感じがします。

内藤: そうそう！その“半端な感じ”を大事にして！

たとえば本来8小節でキリがいいはずのところ10小節かかるとじらされるし、6小節で次行っちゃうとフライングっぽいよね。それって作曲家が狙ってることだから、まとまりはまとまりとして読んであげる感覚で弾くと、不整脈っぽい感じが出て面白くなるよ！

Kくん: …むずかしいですね！どうしても今弾いてるところに夢中になっちゃいます。

内藤: みんなそうなんだよね…。あらかじめ全体像を思い描いて、今のフレーズがどこまで行くか、その行き先まで見てみよう！そして、脳の中では、今弾いてるところよりも一歩先を感じながら身体をリードしていけるといいよね。

(続く)



イラスト: いたう まりこ



内藤先生

Kくん



C. BECHSTEIN
JAPAN

株式会社ベヒシュタイン・ジャパン

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山9-2-1

TEL: 03-3305-1211 FAX: 03-3305-9931

E-mail: info@bechstein.co.jp

HP: https://www.bechstein.co.jp/



発行人 加藤正人・営業企画室